

編集後記

『文化』二四号は、洗建先生のご退任記念号となる。先生が駒澤大学に着任されたのは昭和五三年四月であった。この頃、洗建先生をはじめとして宗教学関係の著名な先生方が常勤、非常勤で授業を担当しておられたが、他大学の学生であった私もそのころから駒澤大学の何人かの先生の授業に「出席」させていただいた。その当時の先生方が一人去られ、また一人去られと寂しくなる中で、とうとう今春は洗建先生のご退任を迎えることになった。

洗建先生はご専門の宗教法の研究で大変著名であるが、日本宗教学会でも長らく常務理事を務められて来られた。そうした先生の存在が駒澤大学の宗教学研究、教育の厚みとなり、重みをまわしてきたと言えよう。先生がご退任を迎えられてただただ寂しいばかりである。こうした感慨を懐くのは私一人では無かるう。先生のみますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

さて、本号は専任の四名の先生方からご寄稿いただいた。ただ、本来ならばもう少しばらく準備期間をおいて、多くの方に寄稿していただくべきであったかもしれない。諸般の事情でそうしたことがかなわなかった。この点はお退任される洗建先生に、編集担当として幾重にもお詫び申し上げたい。実は、私たち文学部文化学教室は一八年度より総合教育研究部の文化学部門として所属が変更することとなった。この決定に従い『駒沢大学文化』は次年度から総合教育研究部の文化学部門として発行されることとなる。

所属変更の経緯については詳細を省くが、一七年度も半ばを過ぎて決定されたため、何としても洗建先生のご退任記念として文学部所属の最後の『文化』を年度内に発行することを優先することとした。

次年度からは、洗建先生に代わって新しい先生をお迎えし、新たな『文化』の発刊となる。とまれ、経緯は別としても次年度からはより充実した論集の発行をめざしたい。(順)

駒沢大学 文化 第二十四号

平成十八年三月三十一日 発行

編集者 駒沢大学文学部文化学教室

代表 池上良正

印刷所 平河工業社

発行所 駒沢大学

東京都世田谷区駒沢一―二三―一
電話 (〇三三) 三四一八―九一一